条幅部自由参考

12月15日正午必着

明石春浦先生書

微風蕭蕭吹二菰蒲一。
開レ門看レ雨月満レ湖（蘇　軾）

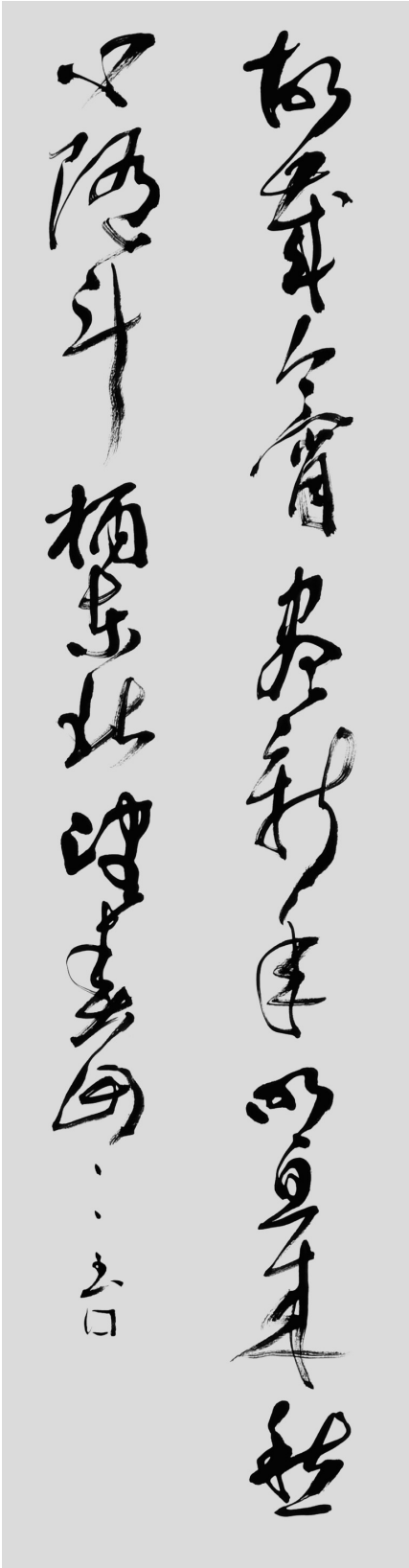
（びふうしょうしょうとしてこほをふき　もんをひらきてあめかとみればつきみずうみにみつ）

微風が蕭々として菰蒲を吹き、外を見れば月が湖一面を照らして雨かと思ったのは吹く音であった。

明石幸子書

こがらしの　音に時雨を　聞きわかで　紅葉にぬる、　袂とぞ見る（具平親王）

12月15日正午必着



森戸春濤書

故歳今宵盡。新年明旦來。
愁心隨二斗柄一。東北望二春回一。

（張　說）歳まさにゆかんとする歳暮の感である。

条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

氷魚霜鶴（鮑　照）

淡月故移二疎影一去。
斷雲誰杵暮山鐘（劉應時）

新秋寄二樂天一（劉禹錫）

月露發二光彩一　此時方見レ秋
夜涼金氣應　天靜火星流
蟲響偏依レ井　螢飛直過レ樓
相知盡白首　清景復追遊

氷魚霜鶴

冬時の魚と鶴と。

淡月故に疎影を移して去り。
斷雲誰か杵く暮山の鐘

雪夜の景。

新秋　楽天に寄す　劉禹錫

月露光彩を発す　此の時　方に秋を見る
夜涼しくして金気応じ　天静かにして火星流る
虫響いて　偏えに井に依り　螢飛んで　直ちに楼を過ぐ
相知　尽く白首　清景　復た追遊せんや

ばら色に　空くゆらして　冬の日は　沈み去りけり　屋並の上に　（窪田空穂）

半紙部規定課題Ａ

12月15日正午必着

※作品には必ず落款を入れてください。

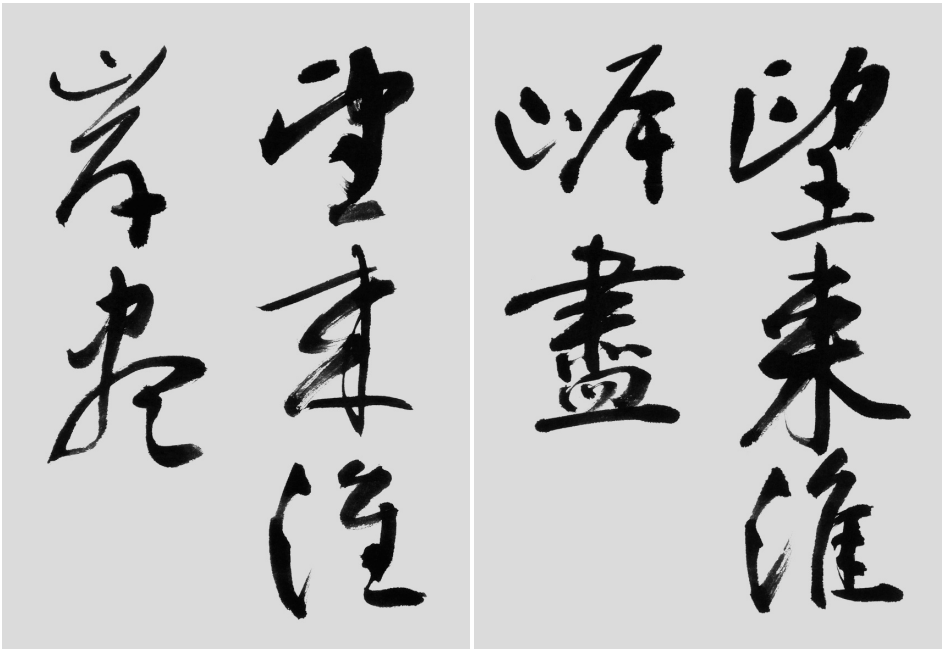
明石春浦先生書

※課題Ａ（楷書）と課題Ｂ（四体の中より一書体選択）の二点を出品のこと。

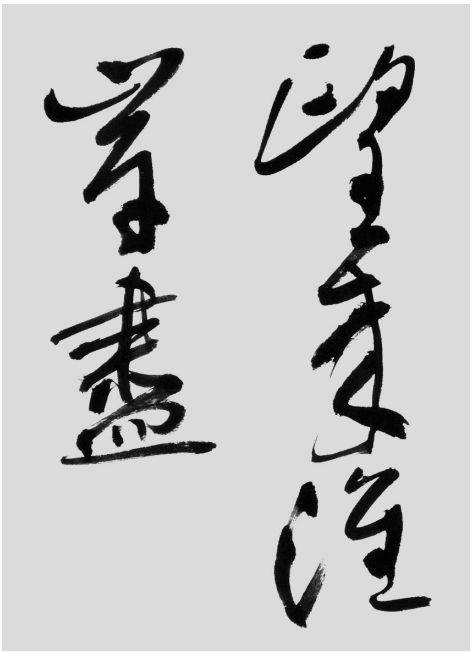
半紙部規定課題Ｂ

12月15日正午必着

行書



草書



隷書

行草書

明石春浦先生書

夜泊二淮陰一　項斯

夜入二楚家煙一
煙中人未レ眠
望來淮岸盡
坐到酒樓前
燈影半臨レ水
箏聲多在レ船
乗レ流向レ東去
別レ此易レ經レ年

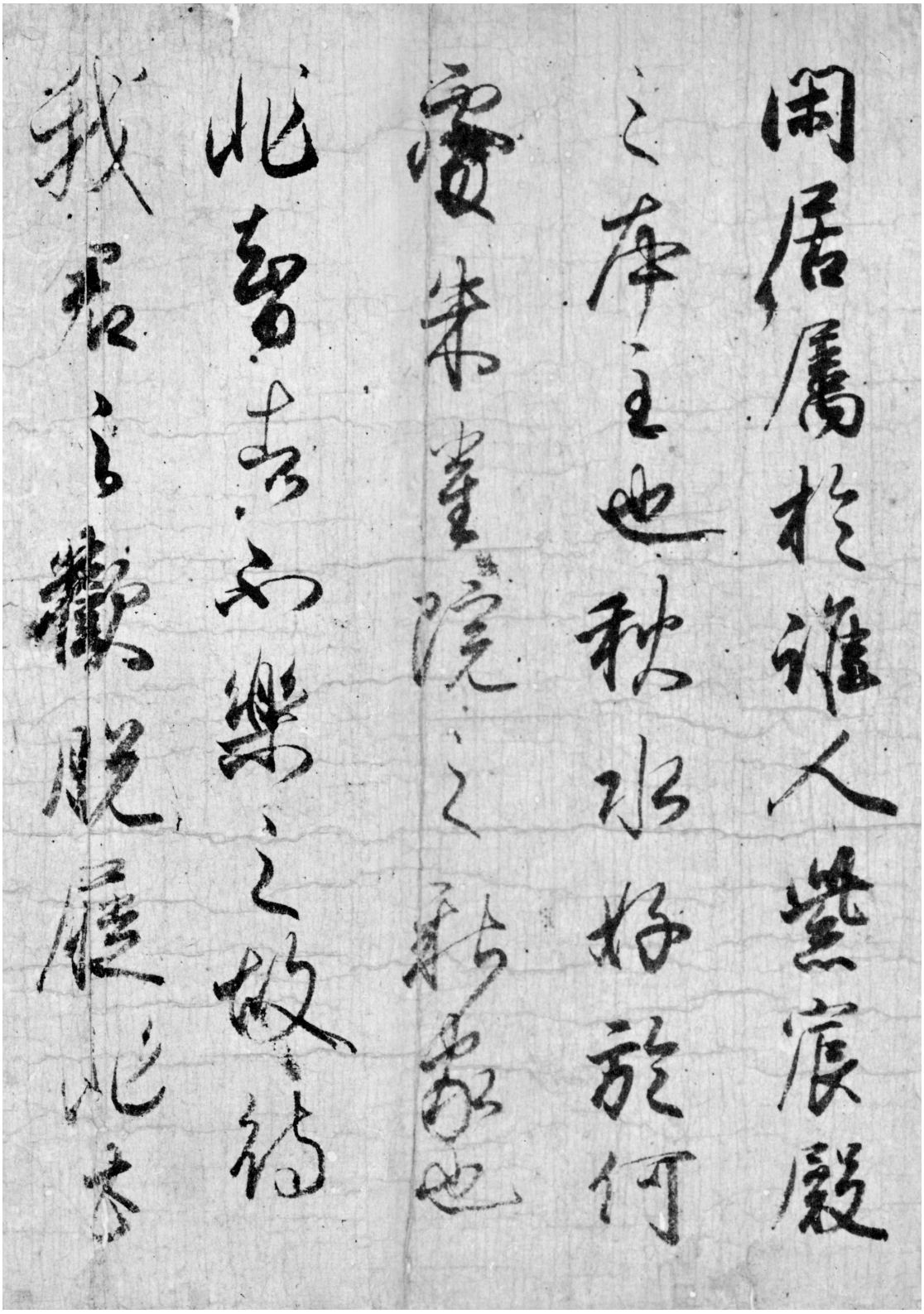
夜　淮陰に泊す　項斯

夜　楚家の煙に入る
煙中　人　未だ眠らず
望み来って　淮岸尽き
坐して到る　酒楼の前
灯影　半ば水に臨み
箏声　多く船に在り
流れに乗じて東に向かって
去る
此を別れて　年を経易からん

朝日新聞社刊
「三体詩」下より

夜になって、楚の家々の盛に煙たちのぼる地域にはいった。煙の中に、人々はまだ眠らずにいる。
淮水の岸辺の眺望を極めつくし、舟中に坐したまま酒楼の前についた。
灯火の影は半ば水を照らし、あたりの船の中からしきりに箏のしらべがきこえる。
流れに乗って東をさして行こうとするが、この地を離れて行けば、たちまちに年月が過ぎることであろう。

条幅部半紙部臨書課題



閑居屬於誰人紫宸殿之本主也秋水好於何處朱雀院之新家也非智者不樂之故待我君之歡脱屣非玄

閑居誰人にか属す。紫宸殿の本主なり。秋水何(いず)れの処か好き。朱雀院の新家なり。智者にあらずんば之を楽しまず。故に我が君の脱屣(だし)を歓(よろこ)ぶを待つ。玄(談)にあらずんば

条幅部半紙部臨書参考

菅井松雲先生臨書

智者にあらずんば（之）を楽しまず。

智者にあらずんば之を楽しまず。故に我が君の脱屣を歓ぶを待つ。（玄談に）あらずんば

平安（へいあん） 藤原行成（ふじわらこうぜい）・本能寺切（ほんのうじぎれ）

平安時代は、貴族の文化であり、従来の唐風文化から国風文化へと移行していった時代でもあった。書の世界でも「三筆」（空海、嵯峨天皇、橘逸勢）の時代から「三蹟」（小野道風、藤原佐理、藤原行成）の時代へと、唐風の書が和洋書道（道風、佐理、行成という三代を経て完成した。）へと変化していった。

行成の見逃すことの出来ないエピソードを「古事談」という鎌倉初期の本が伝えている。

それは清涼殿の歌会の際に、藤原実方が行成の胸ぐらをつかみ、冠を庭へたたき落とした。当時の公卿にとっては、大変な恥辱であり、逆上し大騒ぎになるところだが、行成は少しも動揺せず、冠を拾い、静かにかぶり直した。このいきさつをずっと見ていた一条天皇が、行成の温厚な、そして肝のすわった器量、態度にたいそう感銘をうけたという話である。

当然ながら行成の書には、沈着冷静な人柄が反映されている。

和様独特の均斉のとれた美しい文字、すみずみまで行き届いた微妙な筆づかい。そして懐を広く構え、品格と規範の中であらゆる技を取りいれ、一線一画を鋭い感性と感覚でまとめてある。

臨書するにあたっては、気品を大切にし、緩急抑揚をとり入れて、字と字の気脈が断えないよう、リズムに乗って書きたい。

12月15日正午必着

教育部毛筆

雨宮春聲先生書

暖炉（だんろ）　中学一年

菅井松雲先生書

聖夜（せいや）　中学二三年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

榎戸春龍先生書

白菜（はくさい）　小学五年

横川春川先生書

夜景（やけい）　小学六年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

12月15日正午必着

藤田幸春先生書

冬山（ふゆやま）　小学三年

細谷春誠先生書

北風（きたかぜ）　小学四年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

明石幸子書

ゆ　め　小学一年・幼年

森戸春濤書

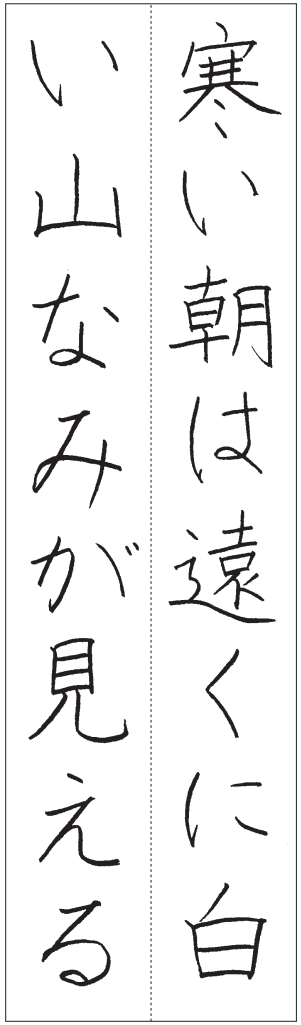
十（じゅう）　二（に）　小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

12月15日正午必着

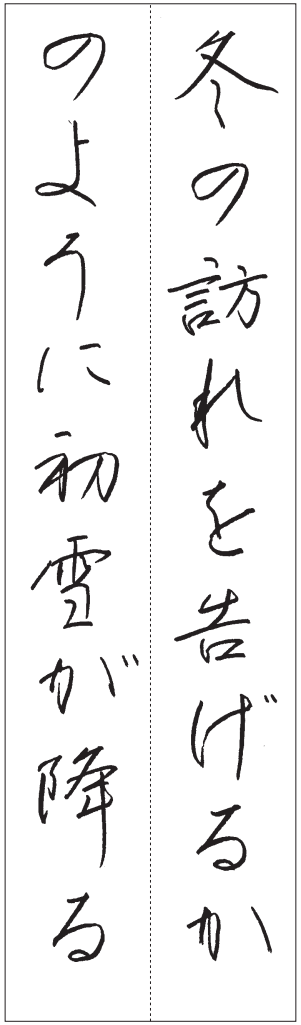
教育部硬筆

ペン字部

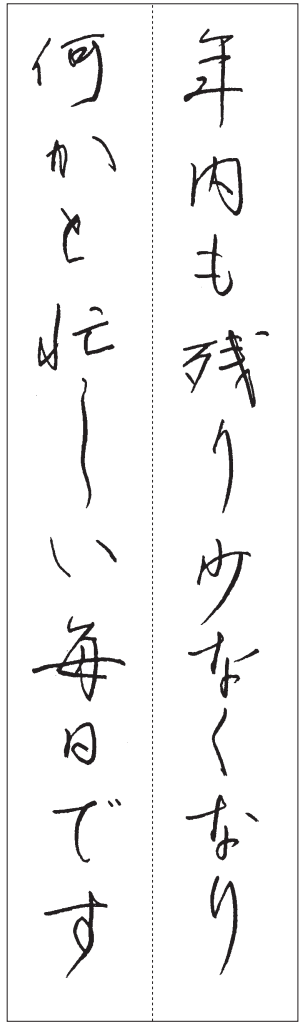


小学五年

小学六年

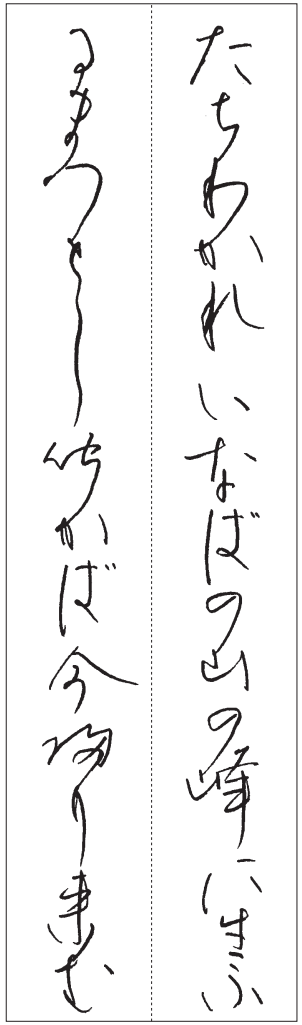


中　学



一般（級位）

たちわかれ いなばの山の 峰に生ふる まつとし聞かば 今帰り来む（在原行平）



明石幸子書

一般（段位）

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆　中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。（ボールペン不可）
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

年末までに部屋の
大そうじをしよう

明石幸子書

小学四年

北国からとどい
た
雪のたより

小学三年

光でかざられた
ふゆの町なみ

小学二年

クリスマスの
プレゼントです

小学一年

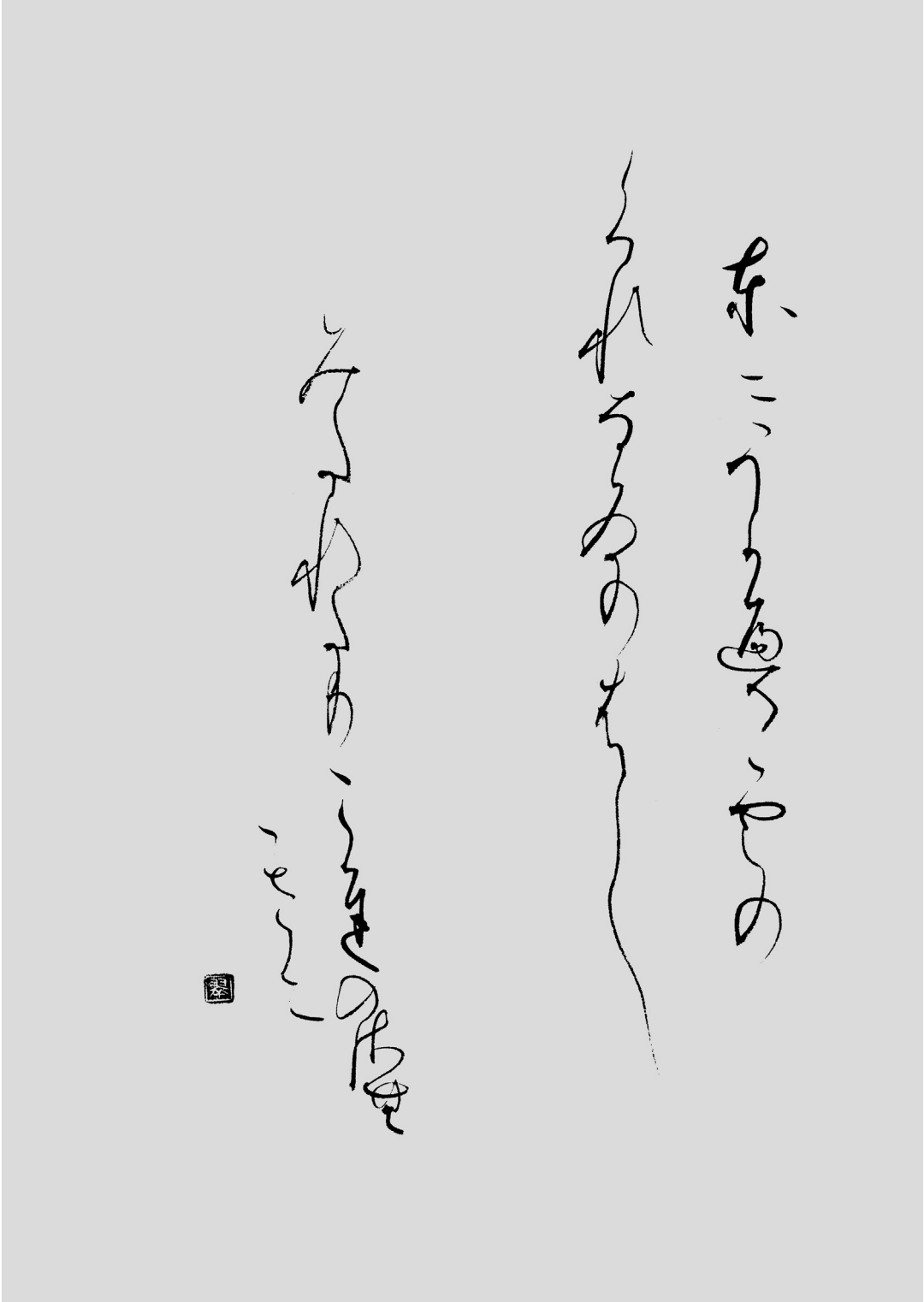
おんがくかいで
うたいました

幼　年

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆　中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。（ボールペン不可）
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

半紙部かな参考

12月15日正午必着



東に　うかべる雲の　くれないの　はしみだれたり　こちのさむきに

二可遍　奈為　者多多利　遅無二

（若山牧水）

松永翠舟先生書